



森のなかま

2012年 1月号

NO.45 (継続190)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

明けましておめでとうございます。

理事長 久保重明

年頭にあたりまずは昨年中の皆様のご活躍にお礼と感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと三つの明るいニュースがありました。一つ目は11月20日、皇太子殿下ご臨席の下、奈良県で第35回全国育樹祭が行われ、その席で私達のかながわ森林インストラクターの会は公益社団法人 全国緑化推進機構理事長賞を頂きました。

二つ目は11月19日に12期生が研修を終了して新たに32名の方に入会頂き、会員数は270名に達しました。これからの活躍が期待されます。

三つ目は、かながわのナショナル・トラスト運動が25周年を迎え、このことを記念して12月4日、慶応大学日吉キャンパスにおいて「かながわのナショナル・トラスト25周年記念シンポジウム」が落ち着いた雰囲気の中で開催されました。これらの慶事について皆様と共に喜びたいと思います。

さて、会はNPO法人になって今年で4年目を迎えます。厚木に事務所を構えてネットワーク活動も増加して、外部との接触も増えてまいりました。同時に活躍が期待されると共に何かと注目が集まる立場に入ったと思っております。これまで以上に会員一人一人が心して活動に励んで行きたいと思っております。また、神奈川県のみどり、町のみどりの保全と再生のためには県内の多くのボランティアと横のつながりを固め協働できるような環境を作って行きたいと考えております。

最後になりましたが、今年の皆様方の健康と活躍を祈念致します。



正月の大山下社のめでたい
“千の輪”です。

これをくぐると、良い年が
舞込んでくるそうです。

写真・文 鈴木松弘(広報部)

トキの飛来誘致でマグネット神奈川

神奈川県チーフ森林インストラクター 飯村 武

新潟県の佐渡トキ保護センターで飼育されているトキ（トキ科の鳥）は、野生復帰を目指して大過なく繁殖している。2008年9月25日に佐渡島で第1回の放鳥（雄5羽、雌5羽）が行われて以来、2011年9月27・28日で第5回、計78羽が放鳥された。2011年11月14日時点での生存数は49羽。第1回の放鳥において、雌4羽が本土に渡ったが、現在生存が確認されているのは2羽（富山県黒部町と新潟県新潟市）であり、47羽が佐渡島に生息する。

トキの繁殖期は春季から初夏、これまでに3回の繁殖期を迎えたのだが、期待は空しく経過している。2010年の場合、3つのペアの産卵が確認されているが、親鳥が卵を捨ててしまったり、カラス類に襲われたりして繁殖に失敗し、2011年にも7つのペアで産卵が確認されたが、いずれも孵化に至らなかった。

それはそれとして、トキやコウノトリを関東平野に呼び戻そうと言う動きが出てきた。2010年7月、千葉・埼玉・茨城・栃木4県の27の市町が連合を結成し、餌の豊富な川や水田を増やす試みを進め始めたのだ。狙いは有機米などをブランド化し、地域の活性化に繋げようというものだ。この連合に神奈川県の名がないのが聊か淋しい。

実は神奈川県にもトキが生息していた。トキの文献（安田 健 1984、山階鳥類研究所報告）には、1735年前、相模川流域以東に分布していた図が示されている。また、日本鳥類大図鑑（清棲幸保 1978 講談社）には横浜に生息していたとの記載がある。更に生息の事実を物語るのは、昭和初期に丹沢方面で捕獲されていることだ。この個体は剥製標本として神奈川県立生命の星・地球博物館に所蔵されている。トキは里地里山の鳥である。幸いトキの棲めそうな里地里山が、丹沢や箱根の山裾一帯に息づいて



いる。生物多様性保全・再生の時代、魅力創出「マグネット神奈川」の一環事業として「トキの飛来・誘致」を考えてみてはどうか。

検討に当たっては概略、次のような事項について認識を共有しておきたい。

キーワード

トキ・生物多様性マグネット神奈川戦略

1) トキ保護の根拠法令と関係事項等

神奈川県立生命の星・地球博物館
収蔵保管されているトキの剥製標本
和名：トキ（特別天然記念物）
学名：Nipponia nippon Teminck
捕獲地：丹沢方面
捕獲年：昭和初期
捕獲者 神田重夫 元翠嵐高教諭
剥製作者 元浅野高教諭
(写真：飯村 武氏 提供)

- ・文化財保護法 特別天然記念物
- ・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 非狩猟鳥（保護鳥）鳥獣保護区
- ・絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律
レッドデータブック
- ・生物多様性基本法
- ・国際保護鳥
- 2) トキを呼ぶ諸事業の動き
- ・自然再生推進法 里地里山再生事業
- ・生物多様性国家戦略 環境省による「生き物みつけ」活動等

- ・日本の里100選 本県では2箇所指定
- ・神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例 事業は2010年8月現在、8箇所
約5,452haで実施
- ・神奈川県水源環境保全条例 事業（河川・水路自然浄化等）は13箇所
- ・かながわトラスト緑地 含湿地緑地
- ・その他 里地里山復元の自主活動、各地でなお、トキにとって河川は食物確保の上での命綱であるので、自然性維持の配慮が大切であり、また水源環境保全事業に関連して、有機米のブランド化を進めている地区がある。

私の認識

野鳥その95

高橋 恒通

フクロウ目フクロウ科の野鳥、今月は夏鳥のアオバズク（漢和名：青葉木菟又は緑葉木菟、英名：Brown Hawk Owl、体長L=29 cm）を<冬季に夏鳥の話も一興かと・・・>ご案内します。

体色は♂♀ほぼ同色です。頭頂部から上背面が黒褐色、喉下から体下面にかけては白地に黒褐色の太い縦斑が目立ちます。

アオバズクの外見上の大きな特徴は、黒褐色の頭巾をかぶった様な坊主頭で羽角は無く、顔の割には大きな目玉で、金色の虹彩が能く目立つ点及び、我国で観察できるフクロウ科の野鳥の中で唯一顔盤のハッキリしない点だと私は認識しております。

この野鳥の世界地図上の棲息分布は、ウスリ一湖辺りから中国東部、東南アジアの島々、そしてインドにかけてと言われています。

日本には夏鳥としてほぼ全国へ渡来して繁殖活動をしますが、暖地では越冬するケースもあり、沖縄では留鳥なのです。

日本での棲息環境は平地から山林、そして農耕地でも都会の寺社でも樹洞があれば、また時には人間の作った巣箱でさえも利用すると言う



アオバズク

野鳥です。

食べ物は昆虫類が主ですが、カエルや小鳥やコウモリなども捕らえて食べます。

標準和名の“アオバズク”の通り青葉の眩しい5月頃から「ホッホッ、ホッホッ・・・」

・・・と二声に区切って十声ぐらい啼きます。特に繁殖期の夜間に啼きます。二声啼きなので一般の人はフクロウと間違える事があると言われていますが、声量は少なく小さな優しい声です。

逆にフクロウのそれは、野太くドスの利いた凄みのある声ですからビギナーでも聴き分けが容易につく筈です。

私の認識では、フクロウ科の野鳥の中でアオバズクが最も人目につき易い野鳥です。

私が住んでいる伊勢原でも近くの“高部屋神社”の鎮守の森にケヤキの大木が幾本もあり、樹洞の処で営巣しているのを2~3年観察しましたが、此の3~4年は何故か空振りばかりで

残念な思いをしております。

夏至を過ぎた頃、夕方に街灯の明かりが目立ち始めると活動開始の二声啼きがスタート。

そして少し目を離している間に、街灯の近くの電線に止まって、蛾や甲虫がやって来るのを待っています。

時折何処かへ飛び去りますが、いつの間にか定位置に戻っていたりします。何しろ羽音が全くないのでその去就の確認が私には少し難しかったと覚えています。また、早朝は東の空が白んで来る頃まで活動していました。

昼間は葉の良く繁った高木の横枝など薄暗い処に止まって、日の暮れ方までジッとしてる事が多い様です。

私は大磯の高麗山でタブノキの大木の横枝に止まっているのを何度も観てますが、年によっては2羽並んでいたり、段違いに3羽が離れていたり姿をも観ています。

アオバズクの育雛時には、近くにガソリンスタンドやコンビニがあれば、そこの明りに誘われてやって来る蛾やカブトムシを足指で捕え、翅や角などをむしって雛に運びますので、その様な狩場の地面には散乱する虫の残骸があります。従ってその折には近隣に鎮守の森などの存在を確認してみてください。

鎮守の森があれば昼間にその大木の枝などを探してください。運が良ければ坊主頭に大きな金目の愛嬌あるキャラのアオバズクに逢える確率が高い筈です。

<参考資料>

- ◎ 山溪カラー名鑑 日本の野鳥
編 高野伸二、解説 浜口哲一他3名
山と溪谷社
- ◎ 野鳥 ウォッチングガイド
写真 山形則男 文 五百沢日丸
日本文芸社
- ◎ 野鳥 山溪フィールドブックス④
写真 叶内拓哉 解説 浜口哲一
山と溪谷社
- ◎ イラスト アオバズク 大塚晴子（広報部）

森林文化講演会報告 「人と森のかかわり」講師 岩井吉彌氏

2011年11月27日（日）会場：桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス* 70名出席

森林文化部会 小笠原 多加子

今年度は昨年の全国植樹祭関連の林業後継者大会で基調講演を行って頂いた岩井先生（林業家・元京都大学教授）を京都からお招きして講演をしていただきました。丸太磨きや台杉で有名な京都北山のご出身で生家も林業家という環境で育ち、お父様亡きあとにご自身も教授と林業家の二束のわらじでご活躍されてきました。今までの講師の方と違い自らも林業家で林業の難しさ等を体験されておられるので我々も身近に感じられる一面も多々ありました。

森林率（国土面積に占める森林面積）は世界第3位、林業の歴史はもっとも古いといわれる日本は世界屈指の森林国であるのに欧米諸国とは自然等の環境意識に各段の差があり驚かされました。欧米では森林は人々の暮らしには欠かせないものになっていました。例えば、クリスマスツリーや薪等の燃料、建築材料、休暇の過ごす場所等です。そのためか環境意識も高いようです。

講演後は先生を囲み茶話会を開催して身近にお話をさせて頂きました。

参加者からも熱いトークがでていました。

アンケートにも ・日本の林業の難しさと欧米と日本の森林文化の違いを感じた。 ・欧米人の森林の関心度の高さを感じる。 ・この先の日本の森はどうなるのか？ ・人と森のかかわりを再認識した。 ・グリーンツーリズムを体験してみたい等のいろいろな感想を頂きました。

講演会のレジメ、アンケートの集計表等の資料をご希望される方は森林文化部会までご一報ください。3年連続して講演会を開催してまいりましたが会員の皆様のご希望のテーマや講師の方をご存知でしたら、来年度以降の参考にさせて頂きたいと思っておりますのでご連絡いただければ幸いです。



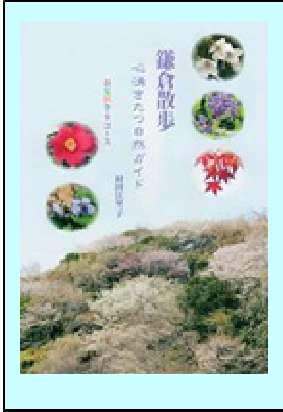
森林文化講演会・・・熱く語る岩井先生

写真提供：高橋 修氏（9期）

本の紹介

『鎌倉散歩～心湧きたつ自然ガイド』
村田 江里子著

広報部



電子書籍『鎌倉散歩～心湧きたつ自然ガイド』が発行された。連載講座「花を訪ねて鎌倉歩き」を主宰する著者が、各季節に訪れたいハイキングコースを地図や豊富な写真と共に案内するもの。サクラ咲く源氏山や夫婦池公園、新緑の衣張山、秋の六国見山など約 10 コースを紹介している。

鎌倉の自然の中で遊び育った著者は、失われてゆく自然に心を痛み、何か実のある活動が

できないかと市の広報課に所属、「広報かまくら」の編集業務に従事する傍ら、もっと多くの人々が鎌倉の自然に愛着を覚える手立てはないかと追究してきた。退職後出産を経て、「地域の自然と親しみ、その楽しさ、素晴らしさを感じて大切に思う心をはぐくんでほしい」と 10 年来温めていた文章や撮りためた写真を電子書籍として発行した。自然を愛で、楽しむことを第一義に、散策コースや

社寺・史跡、植物や小鳥たちにも説明を割き、自然と触れ合う手引きとなっている。

電子書籍店 DL-MARKET

http://www.dlmarket.jp/product_info.php/products_id/164555/language/ja

などで一部閲覧・購入できる。

発行 オフィス福永・A5判96ページ・500円



明けましておめでとうございます。7期の村田江里子と申します。現在2歳になる息子がいることもあり、なかなか活動に参加できず申し訳なく思っています。上記の本のご紹介にあたり、スペースをいただきましたので、この場をお借りして近況報告をさせていただきます。現在は、もっぱら2010年に立ち上げた連続講座「花を訪ねて鎌倉歩き」の開催に専念しています。月約1回、鎌倉の自然観察や社寺散策を通じて、かけがえのない地域の自然の楽しさ、素晴らしさを知っていただくことができればと思っています。

今年度は第3土・日曜に開催しており、現在合計25人ほどにご参加いただいています。4月には、貴重な自然の残る台峯(だいみね)緑地を歩き、その様子は、雑誌『散歩の達人』にも取材・掲載されました。なお、講座の詳細は、ホームページでご案内しています。

<http://www5.dion.ne.jp/~ecokama/kouza/topkouza.himl> 今年10月には、鎌倉観光文化検定のテキストが改定発行され、その自然部分を執筆させていただきました。執筆にあたっては、検定を受ける方が、鎌倉の自然の概要を知るとともに、地域の自然生態系への関心を深め、保護の視点をもって自然とふれあっていたらいいような構成を心がけました。

そのほか、鎌倉市環境審議会委員、鎌倉市公園協会から年に2回発行されるパンフレット「てくてく日和」の制作協力などをしています。今秋から息子と一緒に、鎌倉の自然の中でのびのび遊ぶ「青空自主保育」への参加も始めました。泥んこで野山を駆け回ったり、思いっきり水遊びをしたり。自然の中で子どもたちはとてもいきいきとしていて、毎回ぐんと成長して帰ってきます。生き物である人間にとって、自然は本当にかげがえのない存在なのだ実感しています。これからも、自分にできる形で自然と付き合い合っていくことができたら、と思っています。

<http://www5.dion.ne.jp/~ecokama/kouza/topkouza.himl> 今年10月には、鎌倉観光文化検定のテキストが改定発行され、その自然部分を執筆させていただきました。執筆にあたっては、検定を受ける方が、鎌倉の自然の概要を知るとともに、地域の自然生態系への関心を深め、保護の視点をもって自然とふれあっていたらいいような構成を心がけました。

そのほか、鎌倉市環境審議会委員、鎌倉市公園協会から年に2回発行されるパンフレット「てくてく日和」の制作協力などをしています。今秋から息子と一緒に、鎌倉の自然の中でのびのび遊ぶ「青空自主保育」への参加も始めました。泥んこで野山を駆け回ったり、思いっきり水遊びをしたり。自然の中で子どもたちはとてもいきいきとしていて、毎回ぐんと成長して帰ってきます。生き物である人間にとって、自然は本当にかげがえのない存在なのだ実感しています。これからも、自分にできる形で自然と付き合い合っていくことができたら、と思っています。

活動短信

10/28～11/6

パートナー水源林保全活動（間伐）

日 10月28日（金）9時半～15時
場 やどりき水源林パートナー林（あんしんの森）
参 日立システムズ（旧日立電子サービス）
 新入社員（研修）140名

スタッフ 15名

県 自環保 水源の森林推進課 内田
イ L 斉藤⑥、井出①、国分③、清水③、足立④、
 富樫⑥、戸谷⑥、伊藤⑦、山崎⑦、小野⑦、
 飯澤⑨、青木⑩、小笠原⑩、波多野⑪、
 松本⑪、

日立システムズ恒例の新入社員研修の一環としてパートナー林（あんしんの森）で間伐体験を行った。140名の新入社員が14班に分かれ急斜面と浮石の足場も悪く掛かり木処理等で、実質60分弱の作業では各班1本倒すのがやっとであった。午後の講師の喜多郎氏も加わり、インストラクターの細心の指導と熱心な社員と息の合った作業でヒヤリハットもなく終了。森林保全の意義や重要性を充分感じとったと思う。14班中4班は用具の手入れ時間を利用して、あらかじめ準備をしておいた竹笛（ウグイス笛）を作成し、無事インストラクターとしての役目は終了した。

因みに午後のイベントは作曲家としてシンセサイザーの演奏家として、又 森林保全や自然環境保護活動などでグローバル的に活動している喜多郎氏の体験講話や即席に竹楽器を作り演奏などもありました。新入社員にとって非常に有意義な楽しい研修であったと思います。（記 6期 斉藤）

県民参加の森林づくり活動（枝打ち）

日 10月29日（土）8時～13時40分 晴れ
場 南足柄市塚原（南足柄市県行造林）
参 一般県民 96名

南足柄市森林組合 志村

財 豊丸、永島、
イ L 小笠原⑩、国分③、山崎⑦、渡部⑦、水津⑨
 福島⑨、村井⑨、金森⑩、酒井⑩、杉崎⑩、
 角田⑩、一重⑪、上宮田⑪、柴⑪、佐藤⑪、
 山下⑪、

久々の天候に恵まれ、晴天の日に活動出来る事に感謝し、小田急開成駅西口に集合。参加者と共に8時40分チャーターマイクロに乗車し、定刻南足柄塚原に到着。統括リーダーより作業内容、注意事項の説明後、ヘルメット、ゴーグル、枝打ち鋸を装着し、5班に分かれヒノキ林の現地に移動。これから枝打ちするヒノキの森を目にして、あまりに暗い光景に参加者全員が一瞬立ち止まってしまったけれど、植樹して9年のヒノキの森に光を入れようと全員一丸となり、パワーとやる気、心のエネルギーで枝打ち作業を行った結果、担当エリアはもちろんエリア以上の作業が進み真っ暗だったヒノキの森が明るく、光に満ちた森に変身した事に参加者全員が満足感の

笑顔でした。作業終了後、集合場所に戻りましたが、皆さん枝打ち作業の達成感に満ちあふれ、さわやかな表情が見受けられました。

昼食後は恒例の森林づくりミニ講座があり、総括リーダー・小笠原氏がヒノキの歴史について、弥生時代の頃から神殿作り等にヒノキが使用されていた話やヒノキの活用など色々説明があり、参加者全員が聞きいってしまい本当に勉強になりました。13時塚原を後にして開成駅で解散しました。

（記 11期 一重）

パートナー水源林 保全活動

ヒノキの間伐/自然観察/水生生物観察

日 10月29日（土）10時～15時40分 快晴
場 やどりき水源林

参 (株) 荏原製作所 27名（内子供11名）

県 久富 看 1名

イ L 渡辺③、島岡③、宮本④、森本⑤、

活動は、パートナー林内の間伐体験・自然観察・水生生物の3プログラムの実施。

10時からのオリエンテーションでは特に、インストラクターの注意事項の順守を強調、他はプログラムの関係で簡単（体操はしっかり）にした。3班に分かれて準備、現地で安全を含む作業方法等の説明後、作業開始、親子で鋸を引く光景は微笑ましく親子の愛に感銘をうけた。

作業が進み伐倒時に最善の処置を施したが大木の事もあって、他班の作業中断、その中断した立木に倒れてしまったが、その瞬間は歓声と拍手に包まれた。作業再開中また別班の伐倒が進んだが他班への声掛けが少し遅れた為、再開した立木に鋸を残したままその場を離れた。その立木に2度目の伐倒の先端部が当たり鋸が曲がってしまった。しかし、最後の伐倒は見事で、これぞ間伐の醍醐味、地響きに大きな歓声と拍手は間伐体験の満足感に満ちていた。

昼食後森林講話、午前の班毎に水生生物カジカ（7～8cm）を捕らえて、子供達は歓声を上げたり、触れたりして楽しい思い出を胸にした笑顔に活動の喜びを感じた、又写真を撮る方々もいた。

その後、自然観察、樹木、草花は勿論森林の大切さを再認識されたようでした。子供達はドングリ、ヒノキのサッカーボール等に関心を寄せて嬉しそうな笑顔で話かけられた。

全てのプログラムは予定の15時40分頃終了。

参加者は16時頃やどりき水源林を後にした。

（記 3期 渡辺）

ふじの体験の森“やませみ”間伐体験

日 11月1日（火）12時20分～16時 晴れ

場 ふじの体験の森やませみ/大日野原

参 相模原市立緑台小学校5年生64名+教師他5名

スタッフ やませみ職員 児玉・大平他4名

財 古館

イ L 佐藤⑤、斉藤⑥、小野⑦、飯澤⑨、内野⑨、
 村井⑨、松山⑩、

10月28日に続いての“やませみ”における間伐体験活動、今回は6班編成で樹高16～18mのスギ、

ヒノキの間伐作業とコースター作りを行った。

活動前の打ち合わせで終了時間や役割分担を再確認し、やませみ職員のインストラクター紹介以降活動を開始、ヘルメットを着用させてから枝打鋸を腰に付けさせ間伐場所へ出発。現地ではリーダーから間伐の説明、注意事項の話があり、その後各班に分かれて作業にかかった。今回は時間の無駄を無くすため間伐対象木には班毎の名札がつけられていた。間伐は各班1本だけだが、1時間半の持ち時間をフルに活用した。各班ともロープを引いて倒した後、各自が鋸を使って枝払い、玉切りにかかった頃から次第に熱が入り、コースター作りは時間不足でもあった。

作業終了時には玉切りした材を今後の活動に利用するため途中まで運び出し、「やませみ」に戻ってからインストラクターとのミーティングが設けられた。今回は間伐作業の時間が前回より15分間短縮され、コースター作りに大人の応援が求められた班もあったが、予定通り完全に全工程を終了した。(記 5期 佐藤)

森林保全体験&バームクーヘンづくり

日 11月5日(土) 9時~15時 晴れ

場 小田原市いこいの森

主 小田原市森林組合

スタッフ 小田原市森林組合 佐藤他

イ L杉崎⑩、柏倉④、松山⑩、大塚⑩、

午前はアオキの除伐をしました。

午後はリーダー・杉崎さんの自然観察会でドングリ拾い、ガマズミの赤い実を味合う、クマノミズキのサンゴ拾い、アオツヅラフジのアンモナイトの発見、スギとヒノキの違い、ヒノキのサッカーボール拾い、ひつつき虫、クズ茎とシャボン液のぶらぶら蛇遊びなど、五感を使って楽しく学びました。ツタのリース作りも好評でした。

最後のバームクーヘン作りには子供達は夢中になり、参加者は大満足の日でした。

(記 11期 大塚)

第34回かわさき市民祭り

水源の森林づくり街頭キャンペーン 第2日目

日 11月5日(土) 9時半~16時半 晴れ

場 かわさき市民祭り会場 富士見公園内

参 一般市民492名(大人304名・子供188名)

主 かわさき市民祭り実行委員会

財 内海課長

イ L足立④、落合③、高橋③、竹島③、小野⑦、

武本⑦、草野⑧、松本⑧、小林⑨、中島⑨、

青木⑩、海野⑩、大澤⑩、角田⑩、宮下⑩、

エコトップPG 桜美林大学 林

「かわさき市民祭り」水源の森林づくり街頭キャンペーンの2日目である。天気も良く集合したインストラクターで準備開始。受付、水源涵養機能実験コーナーを含む紙芝居(水は森林からやってくる)とクイズ、間伐材丸太切り体験、森のトトロ木工教室、リーフレット配布とトラスト会員勧誘、「水源の森林づくり」の広報と募金の各

コーナーが早々に設置された。関係者全員で、各コーナーの進め方、安全管理を確認後スタンバイ。

10時、市民祭りの開始。紙芝居コーナーでは、「森林の役割」や「森は緑のダムの話」などを分かりやすく説明。子供たちもインストラクターの話に聞き入っていた。クイズの景品は「竹笛」や「書けない鉛筆のストラップ」など手造りのプレゼント。次のコーナーは丸太切り体験。初めての丸太切りに子供たちも興味津々。丸太の切れ端とドングリなど木の実を使った工作への挑戦。子供も大人も一生懸命、素敵な森のトトロが完成。満足そうな笑顔を見るたびにインストラクターもやりがいを感じている様子が伺えた。広報コーナーでは募金に協力して頂きました。多くの方々には「水源の森林づくり」に関心を持っていただけたことと思います。(記 10期 宮下)

第34回かわさき市民祭り

水源の森林づくり街頭キャンペーン 第3日目

日 11月6日(日) 9時半~16時半 曇り時々小雨

場 かわさき市民祭り会場 富士見公園内

参 一般市民411名(大人324名・子供87名)

主 かわさき市民祭り実行委員会

財 永島

イ L森本⑤、木村②、落合③、高橋③、渡辺③、

島岡③、高崎④、足立④、相馬⑤、武本⑦、

伊藤⑦、村井⑨、海野⑩、角田⑩、一重⑩、

大塚⑩、

天気予報では一日雨と言う事だったので心配していたが、幸いにもほとんどが曇りで、本降りになったのは店じまいの時刻も近づいてきた少しの間だけだった。前日ほどではないが人出は相変わらず多く、私達のブースもほどよく賑わった。「去年とは場所が変わったね」などと親しげに声をかけてくれるリピーターも訪れ、ブース前で熱心に話しこんでいく人もいて、キャンペーンの手応えは十分感じられた。

募金のくじ引きでは盛んに大当たりの鐘が鳴って景気が付けられ、受付から紙芝居、丸太切りを経て工作へ続く流れも順調で、和やかで充実した最終日となった。(記 4期 足立)



緑の募金箱のガラガラくじ



丸太切りに初挑戦

写真提供

伊藤恭造氏(7期)

**やどりき水源林
ミニガイド**

12月のトピックス

- ・10日、パートナーの日立システムズ様、JX日鉱日石様合わせて250余名で水源林を賑わせました。
- ・18日、安全管理委員会主催の救急搬出研修、植物班の冬芽観察がありました。

1月の水源林



15日、一年の安全作業を祈念して
祠前で神事が執り行われます

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）
- 集合：水源林入口ゲート前
- 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわトラスティみどり財団 TEL:045-412-2255
携帯：090-8580-5348
fax:045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

連続講座「花を訪ねて鎌倉歩き」

実施期間；今年度は第3土・日曜各コースで9時30分～12時30分
内容；月約1回の連続講座。年度ごと全10回で4万円程度、1回5000円程度。2月18・19日は「龍口寺・輪番ハカ寺の3つのお寺を歩く～しだれ梅咲く常立寺～」です。
お問い合わせ・申し込み；TEL・FAX0467-46-5271・鎌倉・自然に学ぶ会 村田まで

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。＜広報全般についてのお問い合わせ＞

小沢章男まで

Mail;a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel;0467-52-2191

＜電子配信担当＞ 森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/＜株リコー・森宛045-477-1866＞

Mail:shinrin_inst.denshihaishin@gmail.com

送り先

＜メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minagold109@plum.plala.or.jp

【ccで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

編集後記

★私が登った昨年の名峰です、鍋割山、高取山 矢倉岳 大山仲間と一緒に登れたのが何よりの幸せでした。そしてクリスマスには手作りのリースを飾りました。

(小沢)



★「昨年は大変な年でしたが、今年にはさらに踏んばらねばならない年。森の生き物達もこの寒い冬を春が訪れるまでいろんな工夫をして耐えているんですね！」

(水口)



★野付ネイチャーガイドの大野木さんから「ユキホオジロ飛来」の便りが届きました。北海道も本格的な冬の到来です。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

大塚晴子 鈴木 朗 鈴木松弘

あけましておめでとうございます。

今年も神奈川の森林を守って！！

山麓のオアシス お食事処

お気軽にお立ち寄りください

こまち

小田急線・新松田駅・踏み切り際

緑の募金箱協力店

